



平成24年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社 銀座山形屋  
代 表 社 名 代表取締役社長 山形 政弘  
( J A S D A Q コード番号 8 2 1 5 )  
問 合 せ 先  
役職・氏名 管理部長 渡辺 光潤  
電 話 03-6680-8711

(訂正)「平成24年3月期 第2四半期決算短信」の一部訂正について

平成23年11月10日に発表いたしました「平成24年3月期 第2四半期決算短信」の記載内に一部訂正がありましたのでお知らせいたします。

なお、訂正箇所につきましては、    下線を付しております。

訂正理由については、平成24年11月14日開示の「過年度有価証券報告書、決算短信等の一部訂正に関するお知らせ」をご参照願います。

以 上

## 平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社銀座山形屋  
 コード番号 8215 URL <http://www.ginyama.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日  
 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 山形 政弘  
 (氏名) 渡辺 光潤

TEL 03-3545-4731

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	1,826	△11.2	△295	—	△225	—	△246	—
23年3月期第2四半期	2,058	△5.3	△218	—	△175	—	△386	—

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 △185百万円 (—%) 23年3月期第2四半期 △441百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△14.26	—
23年3月期第2四半期	△22.40	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	3,795	2,351	62.0
23年3月期	4,000	2,537	63.4

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 2,351百万円 23年3月期 2,537百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,355	△0.2	△157	—	△100	—	△108	—	△6.26

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期2Q	18,044,715 株	23年3月期	18,044,715 株
② 期末自己株式数	24年3月期2Q	779,061 株	23年3月期	778,301 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期2Q	17,266,161 株	23年3月期2Q	17,267,707 株

#### ※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続対象外であり、この四半期決算短信の開示において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
(4) 追加情報 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	11
(7) 重要な後発事象 .....	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要とともに回復の兆しが見え始めているものの、エネルギー問題、欧米景気の減速、円高の影響などを受け、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移しました。当業界におきましては、節電対応としてのクールビズ関連の影響が消費者の購買意欲に変化をもたらす傾向が見られるようになりました。

このような経営環境のなか、当社グループは「世界一のオーダーメイド企業をつくる」を合言葉にオーダーメイドを柱に、3基幹ブランド（「銀座山形屋」「サルトリア プロメッサ」「ミスターナ」）の複合店を出店するなど、お客様満足度の向上に努めながら、独自性のある展開を推し進めてまいりました。

しかしながら、猛暑対策としてのクールビズの更なる浸透により、主力のオーダーメイド販売が低調な結果となりました。その結果、当第2四半期連結累計期間の実績といたしましては、売上高は1826百万円（前年同四半期比11.2%減）となり、販売費及び一般管理費の削減等に努めたものの経常損失は225百万円（前年同四半期は175百万円の経常損失）となりました。また、四半期純損失は減損損失の計上等があり246百万円（前年同四半期は386百万円の四半期純損失）となりました。

なお、店舗の状況につきましては、不採算1店舗を閉鎖し、前述の3基幹ブランド複合店1店舗を出店した結果、当第2四半期連結会計期間末における店舗網は、㈱ウイングロード25店舗、日本ソーイング㈱5店舗であり、グループ合計で30店舗となっております。

セグメント別では、小売事業が売上高886百万円（前年同四半期比13.6%減）、セグメント損失155百万円（前年同四半期は144百万円のセグメント損失）、卸売事業が売上高652百万円（前年同四半期比12.5%減、セグメント損失70百万円（前年同四半期は57百万円のセグメント損失）、受託縫製事業が売上高270百万円（前年同四半期比1.1%減）、セグメント損失100百万円（前年同四半期は55百万円のセグメント損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期末における総資産は3795百万円となり、前連結会計年度末に比べ205百万円減少いたしました。主な要因は、季節要因による現金及び預金、売掛金及び受取手形の減少がそれぞれ257百万円、58百万円あった一方で、有形固定資産の取得による増加68百万円や投資有価証券の時価の回復に伴う増加63百万円があったことによるものであります。

負債につきましては前事業年度末に比べ19百万円減少し1,443百万円となりました。主な要因としては、季節要因による買掛金の減少によるものであります。

純資産につきましては、前事業年度末に比べ185百万円減少し2,351百万円となりました。四半期純損失が234百万円となった一方で、投資有価証券の時価回復に伴い、その他有価証券評価差額金が60百万円増加したことによるものであります。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は441百万円で前連結会計年度末に比べ257百万円減少（前年同四半期は125百万円の減少）いたしました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュ・フローは、249百万円の減少（前年同四半期は149百万円の減少）となりました。これは主に、売上債権の減少59百万円等による収入があった一方で、税金等調整前四半期純損失218百万円の計上や仕入債務の減少50百万円等があったことが主な要因であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュ・フローは、5百万円の減少（前年同四半期は26百万円の増加）となりました。これは貸付金の返還による収入が14百万円があった一方で、有形固定資産の取得による支出21百万円があったことが主な要因であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは、2百万円の減少（前年同四半期は1百万円の減少）となりました。これはリース債務の減少による資金の減少があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期までの業績につきましては、概ね計画どおり推移しております。平成24年3月期の業績予想につきましては、平成23年5月14日に公表いたしました連結業績予想に変更はございません。

なお、この予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としております。実際の業績は今後様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

(4) 追加情報

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	699,126	441,200
受取手形及び売掛金	404,647	345,967
商品及び製品	166,520	164,307
仕掛品	15,229	18,358
原材料	142,224	136,515
その他	76,251	62,120
貸倒引当金	<u>△4,710</u>	<u>△2,247</u>
流動資産合計	<u>1,499,288</u>	<u>1,166,222</u>
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	151,762	181,281
その他(純額)	<u>274,309</u>	<u>312,957</u>
有形固定資産合計	<u>426,071</u>	<u>494,238</u>
無形固定資産		
その他	<u>10,431</u>	<u>9,531</u>
無形固定資産合計	<u>10,431</u>	<u>9,531</u>
投資その他の資産		
投資有価証券	1,010,416	1,073,437
敷金及び保証金	826,217	822,519
その他	342,101	327,659
貸倒引当金	<u>△113,996</u>	<u>△98,263</u>
投資その他の資産合計	<u>2,064,739</u>	<u>2,125,354</u>
固定資産合計	<u>2,501,243</u>	<u>2,629,124</u>
資産合計	<u>4,000,531</u>	<u>3,795,347</u>
負債の部		
流動負債		
買掛金	181,766	131,754
未払法人税等	11,178	19,736
ポイント引当金	36,735	32,382
その他	<u>302,435</u>	<u>304,140</u>
流動負債合計	<u>532,116</u>	<u>488,014</u>
固定負債		
退職給付引当金	<u>602,050</u>	<u>620,397</u>
役員退職慰労引当金	89,013	83,171
資産除去債務	219,429	226,910
その他	<u>20,552</u>	<u>24,983</u>
固定負債合計	<u>931,046</u>	<u>955,462</u>
負債合計	<u>1,463,162</u>	<u>1,443,476</u>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,727,560	2,727,560
資本剰余金	882,948	242,303
利益剰余金	<u>△885,339</u>	<u>△490,917</u>
自己株式	△79,225	△79,264
株主資本合計	<u>2,645,944</u>	<u>2,399,682</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△108,575	△47,811
その他の包括利益累計額合計	<u>△108,575</u>	<u>△47,811</u>
純資産合計	<u>2,537,369</u>	<u>2,351,870</u>
負債純資産合計	<u>4,000,531</u>	<u>3,795,347</u>



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	2,058,089	1,826,567
売上原価	<u>991,069</u>	<u>916,571</u>
売上総利益	<u>1,067,020</u>	<u>909,996</u>
販売費及び一般管理費	<u>1,285,490</u>	<u>1,205,071</u>
営業損失(△)	<u>△218,470</u>	<u>△295,075</u>
営業外収益		
受取利息	1,655	1,416
受取配当金	30,579	27,586
受取手数料	6,494	5,541
貸倒引当金戻入額	—	18,196
雑収入	<u>9,440</u>	<u>17,937</u>
営業外収益合計	<u>48,170</u>	<u>70,678</u>
営業外費用		
支払利息	285	273
雑損失	<u>4,664</u>	<u>900</u>
営業外費用合計	<u>4,950</u>	<u>1,174</u>
経常損失(△)	<u>△175,250</u>	<u>△225,570</u>
特別利益		
資産除去債務履行差額	1,006	—
特別利益合計	<u>1,006</u>	<u>—</u>
特別損失		
固定資産除却損	564	—
投資有価証券評価損	—	1,881
固定資産処分損	976	—
減損損失	372	3,272
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	<u>206,376</u>	<u>—</u>
特別損失合計	<u>208,289</u>	<u>5,153</u>
税金等調整前四半期純損失(△)	<u>△382,534</u>	<u>△230,724</u>
法人税、住民税及び事業税	4,271	15,499
法人税等合計	<u>4,271</u>	<u>15,499</u>
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	<u>△386,806</u>	<u>△246,223</u>
四半期純損失(△)	<u>△386,806</u>	<u>△246,223</u>

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	<u>△386,806</u>	<u>△246,223</u>
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	<u>△55,044</u>	<u>60,764</u>
その他の包括利益合計	<u>△55,044</u>	<u>60,764</u>
四半期包括利益	<u>△441,850</u>	<u>△185,459</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>△441,850</u>	<u>△185,459</u>
少数株主に係る四半期包括利益	<u>—</u>	<u>—</u>

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△382,534	△230,724
減価償却費	26,168	31,524
減損損失	372	3,272
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,881
貸倒引当金の増減額(△は減少)	1,631	△18,196
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△5,125	△5,842
退職給付引当金の増減額(△は減少)	5,612	18,346
固定資産除却損	564	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	206,376	—
受取利息及び受取配当金	△32,235	△29,003
支払利息	285	273
売上債権の増減額(△は増加)	138,318	59,706
たな卸資産の増減額(△は増加)	△21,655	4,793
仕入債務の増減額(△は減少)	△29,311	△50,011
その他	△83,022	△57,367
小計	△174,554	△271,348
利息及び配当金の受取額	32,241	29,017
利息の支払額	△285	△273
法人税等の支払額	△6,931	△6,554
営業活動によるキャッシュ・フロー	△149,531	△249,158
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△24,925	△21,315
投資有価証券の取得による支出	△1,534	△929
敷金及び保証金の回収による収入	46,579	9,459
敷金及び保証金の差入による支出	△432	△6,012
貸付金の回収による収入	12,264	14,705
その他	△5,839	△1,821
投資活動によるキャッシュ・フロー	26,111	△5,913
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	—	△38
リース債務の返済による支出	△1,843	△2,814
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,843	△2,853
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△125,263	△257,925
現金及び現金同等物の期首残高	680,390	699,126
現金及び現金同等物の四半期末残高	555,127	441,200

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)  
1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,026,246	744,818	273,672	2,044,737	13,351	2,058,089
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	920,373	920,373	△920,373	—
計	1,026,246	744,818	1,194,045	2,965,111	△907,021	2,058,089
セグメント利益又は損失(△)	<u>△144,737</u>	<u>△57,306</u>	<u>△55,884</u>	<u>△257,927</u>	<u>23,860</u>	<u>△234,067</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>△257,927</u>
「その他」の区分の利益	<u>23,860</u>
セグメント間取引消去	2,854
棚卸資産の調整額	434
その他の調整額	12,307
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	<u>△218,470</u>

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間におきましては、重要な発生及び変動はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	卸売事業	受託縫製 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	886,989	652,036	270,712	1,809,739	16,828	1,826,567
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	771,551	771,551	△771,551	—
計	886,989	652,036	1,042,264	2,581,290	△754,723	1,826,567
セグメント利益又は損失(△)	<u>△155,511</u>	<u>△70,383</u>	<u>△100,558</u>	<u>△326,454</u>	<u>25,669</u>	<u>△300,785</u>

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない持株会社としての管理業務、不動産賃貸業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	<u>△326,454</u>
「その他」の区分の利益	<u>25,669</u>
セグメント間取引消去	2,854
棚卸資産の調整額	2,355
その他の調整額	500
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	<u>△295,075</u>

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第2四半期連結累計期間におきましては、重要な発生及び変動はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

平成23年6月29日開催の第67期定時株主総会に資本準備金の額の減少及び剰余金の処分について、以下の内容について付議することを決議し、同株主総会にて承認可決されております。

1. 資本準備金の額の減少の要領

- (1) 減少する準備金の額
  - 資本準備金 593,587千円
- (2) 増加する剰余金の額
  - その他資本剰余金 593,587千円

2. 剰余金の処分の要領

- (1) 減少する剰余金の額
  - その他資本剰余金 640,645千円
- (2) 増加する剰余金の額
  - 繰越利益剰余金 640,645千円

上記の結果、第1四半期連結会計期間において資本剰余金が640,645千円減少し、利益剰余金が640,645千円増加しております。当第2四半期連結会計期間末においては資本準備金が242,303千円、利益剰余金が△490,917千円となっております。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。